

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「正解が一つではない問い」を重視した授業を積極的に展開することで、生徒が自ら課題を発見し、解決する力や思考力・判断力・表現力等を育み探究する力の育成を目指した授業改善を行う。 ②時代や社会の変化に柔軟に対応でき、未来を考えられる資質・能力の育成のための教育課程の編成に取組む。	①すべての学年が新教育課程となる初年度であることを踏まえ、教科等横断的・探究的な学びを実現するための組織的な授業改善に取り組む。 ②新教育課程の趣旨を職員全体で共有し、教育課程の改善・見直しを進める。	①教職員同士の授業見学を促進し、授業研究協議会や作問研究会の実施を通して職員全体の授業改善への意識を高める。 ②科目選択や定期試験、学習評価等に関する議論を様々な機会で行き、新教育課程の趣旨を職員全体で共有し、必要な見直しを行う。	①生徒による授業評価アンケートの結果が改善されたか。職員へのアンケートを行い、教科等横断的・探究的な学びを実現する授業の増加が確認できたか。 ②教科会やグループ会議の機会を通じて新教育課程の趣旨を共有する機会を設けることができたか。必要な教育課程の改善・見直しに着手できたか。	①教員同士が授業を見学する際の回答フォームを活用することができた。生徒による授業評価アンケートの結果については、昨年度と比較して「かなり当てはまる」と回答した割合が低下した教科が多かった。 ②教育課程の改善・見直しに向けた議論の機会を設け、具体的な見直し案を検討し始めた。	①昨年度実施したような教員研修を今年度は多く実践することができなかった。来年度は学習指導要領で求められる授業の在り方について、教員同士で主体的に研究し合うことができるような機会をより多く設ける必要がある。 ②どのような学校を目指していくべきかという議論をさらに深め、それを実現できる教育課程を具体的に作成していきたい。	①教職員の課題や目標に向けて積極的に取り組む姿勢が伝わっている。「正解が一つではない問い」は良テーマである。 ①1年生のころ、心配だったが、授業のグループ学習がきっかけで、友人関係を築くことができた。このような配慮がよい。 ②通信教育制度で卒業できた生徒がいたということである。	①教職員間で現在の本校が抱えている課題や今後の目標について、考える機会を設けることができた。本校の授業改善テーマに対する意識をより高めていく必要がある。 ②教職員間での議論をもとにして、令和8年度入学生に適用する新しい教育課程案を作成することができた。また、新たに不登校生徒等のための「通信教育」の制度を導入したことで、様々な課題を抱えて登校することが困難であった生徒を進級や卒業につなげることができた。	①今年度議論してきた本校の課題や目標を、実際の授業において実現することを目指して研修の機会を設定し、授業改善の機運を高めていく。 ②中学生に向けて、教育課程を改善したことや、本校の目指す教育のあり方について積極的にアピールしていく。「通信教育」導入の初年度で出てきた様々な課題や運用の方法について、さらなる改善を進めていく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒の主体性や創造力を育むべく「生徒の自治」を支援し、生徒主体の学校行事や生徒会活動で培った力を学校生活や学習活動に生かせる生徒集団を育成する。 ②部活動の活性化を図り、安全面に配慮した活動や他者に対する思いやりのある行動ができる力を育成する。 ③健康や安全に関する学習活動や支援を通じ、生徒がお互いの個性・特性を尊重すること	①生徒主体の学校行事や生徒会活動で培った力を学校生活や学習活動に生かせる生徒集団を育成し、「生徒の自治」を支援する。 ②③安全に配慮し、安心して学校生活、部活動ができる環境を整える。	①学校行事・生徒会活動を通して生徒の主体性・創造力を育成し、時代に合ったルールを作成や共通理解が得られるバランスの取れた行事設定を検討する。 ②顧問総会や生徒の部長会で安全対策や部室管理に係る啓発を行い、重大事故発生防止につなげる。 ③「性に関する講演会」「交通安全・携帯電話に関する学習会」を実施し共通理解を図	①生徒が各行事のねらいを理解して活動することができたか。グループと学年が共通理解を図り、リーダー育成の支援ができたか。 ②生徒自身が安全対策を理解し、部活動の運営や地域に貢献できる環境の整備ができたか。 ③講演会・学習会において生徒の気づきや学びがあったか。	①生徒主体の学校行事や生徒会活動を通して、自他を尊重し、バランスの取れたリーダーの育成に繋げることができた。 ②顧問総会や生徒の部長会を通して、傷病予防、熱中症対策、感染症防止対策を充実させ、重大事故発生を防止し、安心安全に配慮した活動を支援することができた。 ③「性に関する講演会」「交通安全・携帯電話に関する学習会」「薬物乱用防止学習会」を通して、命の尊重・安全に生きるための	①学校行事・生徒会活動を通して生徒の主体性・創造力を育成し、時代に合ったルールを作成や共通理解が得られるバランスの取れた行事運営ができるように見守る体制を整備する。 ②今後も安全面に配慮した活動を共通理解を持って取り組めるような環境を整備する。 ③今後も講演会や学習会を実施し、安全に生活できる基盤を整備する。SNS関連の対応、SC及びSSWの	①文化祭の企画・実行などは、「正解が一つではない問い」について考える力を養えるもので、良い経験をしている。表現力についても、それぞれの個性があり、またそれを認められる環境にあることは次の成長につながる。 ②③部活動等について、熱中症対策をしっかりと対応している。	①生徒主体の学校行事や生徒会活動を通して、自他を尊重し、バランスの取れたリーダーの育成に繋げることができた。その一方でリーダー等の役割のない生徒の主体性の育成などの課題が残った。 ②顧問総会や研修会などを通して、熱中症対策については顧問や生徒の意識が向上された。また、活動中の事故を防止するための環境整備など安全に配慮した活動を行うことができた。しかしながら、生徒の活動中のけがはまだまだ多く発生しており、活動内容についても顧問や生徒の意識を高める必要があると感じた。 ③さまざまな講演会を通じて、生徒が主体的に考え安全に生活できる環境を整えることができた。また、かながわサポートドック等のアンケー	①リーダーの育成だけに意識を置かず、その他の生徒の主体性を向上させるような仕組みを模索していきたい。 ②講習会などを通して、顧問や生徒に向け、限られた時間の中での活動において、活動中のけがを防止するために必要なことを学ぶ機会を設けた。 ③SNSについての講演会では、これまでの内容に加えて、闇バイトや配信アプリ等の危険性についても取り入れ、常に社会情勢にあった内容に更新

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		で、安心して学校生活を送れる環境を整える。		り生徒の支援にあたる。		知識の理解に繋がった。 ③SC、SSW の利用はそれぞれ50回を超え、多くの生徒が活用した。サポートドックを2回実施し、生徒が抱える問題の情報の共有ができた。	活動を整備し、かながわサポートドック、いじめアンケート等の利用の仕方を更に工夫する。		トを活用し SC、SSW を効果的に活用できた。課題としては、講演会の種類を吟味し、時代に必要なものを吟味し内容を精査する必要がある。	していく。またSC、SSW に気軽に相談できるように、校内巡視をしたり集会に顔を出したりと、認知を広げていく。
3	進路指導・支援	①自己の高みを目指した目標設定及びその実現への支援を図る。 ②教育情勢を的確に把握し、適切な情報の収集と周知、共有に努めるとともに、組織的な支援体制を構築する。	①目標設定を早期にすることの効果を理解させ、実行に繋げるための支援をし、生徒が持つ可能性を広げる。 ②変化の著しい社会において有用となる実力を付けさせるために、教員同士で情報や知識を深める。	①本校の進路支援のスタンスを共通認識した上で、各教員がそれぞれの方法で生徒に対峙しつつ、模試データ等を利用して生徒の成長を確認する。 ②教員対象進路研修会、模試分析会、新旧3年担任情報伝達会等を活性化させ、教員の進路に対する知識を増やす。	①生徒が、各学年に相応しい学習習慣と学習方法を身に付けられたか。 ②設定した会等で、活発な議論や意見交換ができたか。	①模試分析会等を通じて、Compass（個人把握＆面談ツール）の活用が一層活発化し、より多角的な方面からの進路指導に繋がった。 ②学年を中心として、模試の結果や受験情報の共有等、進路に関する話題が頻繁に交わされ、刺激となった。	①生徒「自身の高みを目指した目標設定」をする際に、萎縮せずチャレンジしようとする気持ちを大切にするよう、組織としての機能を高める。 ②中期先（4、5年後）を見据えて支援できるよう、教員の自覚と意識を高めるため、他校、他都道府県の情報等を得る。	①「正解が一つではない問い」について考えることは、生徒が今後社会に出て生きていくためにとても必要なことである。 ②進路について、横須賀地区の生徒は穏やかで、自分はこの位だとすぐに決める。「チャレンジ」させるには、外部の力を利用することも一つの方法である。	①多角的な方面から進路支援をすることができた。今後も、収集したデータや効果的な情報を、いかに生徒に還元していくかが大切であり、教員個々の力量や経験値に頼らない、組織化した進路指導をより一層進める必要がある。 ②PCを利用した出願データ管理等を実践し、生徒情報の共有化ができた。社会の動き等も把握しながら進路情報を提供できた。	①日ごろから生徒と注意深く接し、生徒個々のニーズを聴き取ることで、学年進路を中心として情報を共有し、高みを目指させる指導を行う。 ②県内外の高等学校の状況を知るとともに、社会の動き（例えば教育無償化の影響、大学の改編等）に敏感になることで、中長期的な視点を育成する。
4	地域等との協働	①生徒に地域の一員であるという意識を持たせ地域等と協働・交流を行うことで、広い視野を持って何事にも取り組んでいける生徒を育成し、信頼される学校づくりを行う。 ②「いのちを守る」ために主体的に行動する態度の育成を目指した防災教育を実践する。	①近隣町内会やPTA、生徒支援グループと協力して、生徒が地域の一員としての自覚を持ち、充実した学校生活を送れる環境を整える。 ②津波を想定した防災訓練の実施。	①地域やPTAとの協働・交流の機会を増やすような取り組みをすることに努める。 ②通常授業中に災害が起きることを想定した防災訓練に変更し、避難先も各棟4階へ変更して実施する。	①具体的な取り組みを企画・運営することに努めることができたか。 ②実際の災害を想定したシミュレーションになったか。課題を発見し、適切に更新できたか。	①橘華祭、あいさつ運動等の行事において、地域・PTAと連携を図ることに努めた。清掃活動としての地域貢献活動は、悪天候のため実施できなかった。 ②実際の災害を想定し、避難場所を教室ではなく「4階」として避難訓練を実施したところ、大きなトラブルなく終えることができた。	①どのようなことを企画し、運営するかが今後の課題である。 ②在学中に様々な災害への備えを万全にするため、津波、火事、地震の各災害を想定した避難訓練を、3年間の学校生活の中で体験できるよう、予定を組む。	①②避難訓練の確認、津波を想定した防災訓練の実施は、生徒たちにとってまた先生方にとっても非常に有意義で重要なことと感じますので今後も様々な観点から続けていきたいと思っています。	①橘華祭等の行事で、PTAや地域の方々との交流を図ることができた。 ②次年度より、3年間の学校生活を通して、津波、火災、地震の各災害を想定した避難訓練を実施し、生徒の防災意識向上と適切な避難行動の習得を目指す。 津波と地震の訓練の違いが分かりづらいという意見を頂いた。それぞれの訓練の目的と内容を明確にすることで、理解を深める。	①地域の方々が望む生徒との関わり方を話し合う機会を設けることに努め、交流を深めていく。 ②津波訓練では、地震発生後の津波からの避難に焦点を当て、地震訓練では、地震発生時の身の安全確保と、その後の建物倒壊など二次災害への対応を重点的に行う。
5	学校管理 学校運営	①施設、設備等の管理を徹底し、生徒の学習環境をより向上させる。 ②学校全体で校内美化に取り組み、生徒自身に環境整備に参画する意識を持たせる。	①施設、設備等管理による学習環境整備 ②校内美化の推進と生徒への環境意識の向上	①施設予約のオンライン化整備などを推進する。 ②生徒支援Gの清掃に関する役割に総務Gも関わり、校内美化を推進する。	①施設予約オンライン化整備が進んだか。 ②校内美化の取り組みが進んだか。	①施設だけでなく公用自転車などもオンライン予約できる仕組みを作った。 ②校内美化、環境整備活動を設定し、環境に対する意識を高め、日常の清掃を積極的に取り組む態度の育成ができた。	①エアコンの使用に関する規定を、期間による制限から、室温や外気温といった環境条件に基づくものに改める。 ②清掃指導を継続的に行い、特にトイレ清掃の工夫が必要である。ごみの分別など環境整備の意識を高めたい。	①②学習環境を整えることは、学習活動の意欲につながるもので、環境に合わせてしっかりと対応している。	①授業で利用する特別教室の施設予約を含め、全ての予約をTeams の施設予約システムで管理しているが、授業、部活動、会議等の年間予約は総務G 担当者が一括入力しており、負担が大きい。 ②年度初めにトイレ清掃の研修会を行い、担当職員による清掃の差をなくすことができた。ごみの分別については、職員・生徒にまだ浸透しておらず課題が残った。	①授業、部活動、会議等の年間予約については、施設予約の運用ルールを見直し、各担当者が直接入力することで、総務G 担当者の負担軽減と入力ミスの削減を目指す。 ②校内美化のためにどのような清掃を取り組むかを職員全体で考え、美化意識を高めていく。ごみの分別は細分化されたものが多く、掲示物の配布や声掛けをさらに徹底する必要がある。